

野間清治記念

館を

目指して

編集後記 竹田賢一

桐生市には歴史文化の文化施設があまりありません。「昆虫の森」があること、おっしゃる方もおられるが町村合併で出来た施設で、文化財の



多い桐生としては貴重な資料を保存し公開する施設がありません。いわゆる西高東低の状況であり、それが文化財の散失を招いておられます。

平成十七年度群馬県は行政事務費所に権限を委譲して、地方で出来る事は地方で解決する施策をとりましたが、博物館建設となると地方事務所の職能を離れて思議室知事の発議が必要となります。

野間清治顕彰会館は、桐生が輩出した読書社創業者野間清治の出身地であり、熱心なコレクターもいて、何回か展示会を開催しておりますが、郷土資料館レベルも老朽化した施設であり、記念館館舎等を桐生市立南小学校の空き教室を借用して一歩前進しました。平成十七年度中学校の統合による空き教室の転用位で解決することなく、単独の館舎として建設を急ぎたいです。

去る四月二十七日(土)から五月二十六日(金)まで開催した「野間清治展」九大雑誌と附録では、桐生市立南小学校中ホールで、桐生市の方をはじめ関係各団の皆様のご支援ご協力により何とかならずに終了することができました。

また、大勢の方々の「報告書」いただきましたがどうもありがとうございました。この紙上をお借りしてお礼申し上げます。

第2回

野間清治展を終えて

野間清治研究者 島田昭二



野間清治

今回は、特別に講読社様より『少年雑誌』の大野山野間三治を特別にお借りすることができ、歴史大花を添えていただきました。

「面白くてなる」いわゆる講読社文化の確立した野間清治の事は、種々述べて、民衆教育・学校教育を深く役割を果たしたとして、徳島新聞は講読社を「私設文化機関」と評しました。現在、野間清治を記念する「今日の文壇科学生日記」という話もありました。人柄や懐かしい言葉、創設に専心した野間清治、その上、

ユーモリストであった野間清治をスケールの大きい人間として魅力をもつ中で伝えることができればと思っています。

野間清治は、また創設の教化的価値を高く評価し創設を社会や少年の修養雑誌の具とするべくとも創設で得たものを事業運営上にも活用しました。また、少年の育成・社会推進の一翼として群馬県を中心に多くの小学校卒業の少年を採用し、創設時代と同業の会社に採用など人材の発掘育成に努めました。これら「群馬と創設」にテーマをしばり、次の企画展の準備を現在、進めています。

開催になりましたが、皆様方からの「野間清治」に関する情報をお寄せいただき、調査研究、展覧活動をより一層花形にしたいと思っております。

